

2022 年5 月26 日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部
教員研修 実施報告書 (Web 公開用)

1. 所属	文学部 美学美術史学科
2. 職名・氏名	教授 ・ 椎原伸博
3. 研修期間	2021 年4 月1 日 ～ 2022 年3 月31 日
4. 研修先機関（国名）	成城大学・文芸学部・芸術学科 津上英輔 教授
5. 研修課題名	現代美術と「食」・スペイン内戦の表象研究
6. 研修経過 （月単位で記載してください） 例）4 月上旬～5 月下旬：	現代美術と「食」 スペイン内戦の表象研究 4 月 静岡調査 4 月～8 月 国会図書館等資料収集 5 月～9 月 5 月～6 月 学科紀要論文執筆 科研費による研究会（5/25、6/28、7/27、8/24 発表、9/28） 現地調査 7 月～9 月 学部紀要論文準備 6 月金沢、京都、大阪、西宮 8 月石巻、水戸 9 月奥能登（珠洲） 9/17 成城美学美術史学会口頭発表 10 月～12 月 10 月 学部紀要論文執筆 10/25 科研費による研究会 11/27、12/18 公開シンポジウムでの口頭発表とディスカッション 12/19 日本アートマネジメント学会 口頭発表 地調査 10 月～11 月 掛川、信濃大町、中之条 1 月～3 月 研究成果報告書の論文執筆とまとめ 1 月 立命館大学 風景論研究会例会 口頭発表 現地調査 1 月名古屋、八戸 2 月松本
7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）	2021 年度実践女子大学研究成果公開促進費による公開討論会 『現代アートにおける創造的行為としての「食」研究成果に基づく公開討論会』報告書『現代アートにおける創造的行為としての「食」の研究』研究成果報告書の作成。 論文「現代アートにおける創造的行為としての「食」について」 上記報告書所収、2022 年 3 月、23-29 頁。 論文「日本におけるロバート・キャパの受容について ―雑誌『セルパン』に掲載された《崩れ落ちる兵士》をめぐって―」 実践女子大学『美学美術史学』第 36 号、2022 年 3 月、67-82 頁。

	論文「イリヤ・エレンブルグのスペイン内戦写真集『奴らを通すな (iNO PASARAN!)』(1937)について」 実践女子大学文学部『紀要』第 64 号、2022 年 3 月、1-23 頁。 学会発表 9/17 成城美学美術史学会第 12 回例会 「イリヤ・エレンブルグのスペイン内戦写真集『奴らを通すな (iNO PASARAN!)』(1937) について」 12/18 日本アートマネジメント学会第 23 回全国大会 「現代アートにおける創造的行為としての「食」について」 1/27 立命館大学 第五回風景論研究会例会 「「ドイツにおける都市再開発事業と現代アート —BUGA ゲルゼンキルヒェン 1997 を手がかりとして—」
8. 所感	研修期間において、「現代美術と「食」」と「スペイン内戦の表象研究」の二つの研究を遂行した。前者は、科学研究費による研究であり、本年度は 4 年の研究の総括を行う年であり、コロナ禍で海外調査はかなわなかったが、国内調査を積極的に行った。そして、5 月から 10 月にかけて、ゲストスピーカーを交えた研究会を六回開催した。研究会は 3 時間程度の時間をかけており、そこでのディスカッションは研究遂行上有意義であった。また、研究成果公開促進費の助成を受け、公開シンポジウム 11 月と 12 月に行い、新しい知見を得るとともに、研究成果の社会への還元を試みた。そして、最終的には総文字数 40 万字に及ぶ研究成果報告書にまとめ、主要な研究機関に頒布した。 一方、二つ目の研究では、学科紀要に発表した論文において、ロバート・キャパがどのように日本に受容されていったかについて、新事実を提示することが出来た。また、学部紀要に発表した研究では、現物の資料が日本にないため、海外調査が出来なかったことが残念であった。その限定のなかではあるが、ある程度の成果を残せたのではと思う。 最後に、コロナ禍の成城大学文芸学部芸術学科における研修であったが、特に津上英輔教授からは、資料収集の便宜を図ってもらったとともに、成城美学美術史学会における研究発表の機会を与えていただいた。また、学会の例会では成城大学の学生や教員と積極的な意見交換が出来たことはとても有意義であった。ここに心より感謝の意を表します。